



クラウドへのバックアップ ONTAP 9

NetApp
August 21, 2024

目次

クラウドへのバックアップ	1
SnapMirror を使用してデータをクラウドにバックアップ	1
Cloud Backup を使用してデータをバックアップ	3

クラウドへのバックアップ

SnapMirror を使用してデータをクラウドにバックアップ

ONTAP 9.9.1以降では、System Managerを使用して、クラウドにデータをバックアップしたり、クラウドストレージから別のボリュームにデータをリストアしたりできます。ONTAP または StorageGRID S3 をクラウドオブジェクトストアとして使用できません。

SnapMirrorクラウド機能を使用する前に、ネットアップサポートサイトからSnapMirror Cloud APIライセンスキーを要求する必要があります。"[SnapMirror Cloud APIライセンスキーを申請します](#)"。指示に従って、ビジネスチャンスの簡単な概要を入力し、指定されたEメールアドレスにEメールを送信してAPIキーを要求します。24時間以内に応答するEメールと、APIキーの入手方法に関する詳しい説明が記載されています。

クラウドオブジェクトストアを追加します

SnapMirror クラウドバックアップを設定する前に、StorageGRID または ONTAP S3 クラウドオブジェクトストアを追加する必要があります。

手順

1. [保護]、[概要]、[クラウドオブジェクトストア*]の順にクリックします。
2. をクリックします [追加アイコン]。

デフォルトのポリシーを使用してバックアップします

デフォルトのクラウド保護ポリシーである DailyBackup を使用して、既存のボリュームの SnapMirror Cloud バックアップを簡単に設定できます。

手順

1. [保護]、[概要]の順にクリックし、[クラウドへのボリュームのバックアップ*]を選択します。
2. 初めてクラウドにバックアップする場合は、ライセンスのフィールドに次のように SnapMirror Cloud API ライセンスキーを入力します。
3. [* Authenticate and Continue] をクリックします。 *
4. ソースボリュームを選択
5. クラウドオブジェクトストアを選択します。
6. [保存 (Save)] をクリックします。

カスタムクラウドバックアップポリシーを作成する

SnapMirror クラウドバックアップにデフォルトの DailyBackup クラウドポリシーを使用しない場合は、独自のポリシーを作成できます。

手順

1. [保護]、[概要]、[ローカルポリシーの設定]の順にクリックし、[保護ポリシー*]を選択します。

2. [* 追加] をクリックし、新しいポリシーの詳細を入力します。
3. [* ポリシータイプ *] セクションで、 [クラウドにバックアップ] を選択してクラウドポリシーを作成していることを示します。
4. [保存 (Save)] をクリックします。

[* Volumes] ページからバックアップを作成します

System Manager * Volumes * ページでは、複数のボリュームのクラウドバックアップを一度に選択して作成する場合や、カスタムの保護ポリシーを使用する場合に使用できます。

手順

1. [ストレージ]、[ボリューム] の順にクリックします。
2. クラウドにバックアップするボリュームを選択し、 * Protect * をクリックします。
3. [* Protect Volume] (ボリュームの保護) ウィンドウで、[* More Options* (その他のオプション)] をクリックします。
4. ポリシーを選択します。

デフォルトポリシー、DailyBackup、または作成したカスタムクラウドポリシーを選択できます。

5. クラウドオブジェクトストアを選択します。
6. [保存 (Save)] をクリックします。

クラウドからリストアします

System Manager を使用して、クラウドストレージからソースクラスタ上の別のボリュームにバックアップしたデータをリストアできます。

手順

1. SnapMirrorとクラウド間関係のソースクラスタで、*[ストレージ]>[ボリューム]*をクリックします。
2. リストアするボリュームを選択します。
3. [クラウドにバックアップ*] タブを選択します。
4. リストアするソースボリュームの横にあるをクリックし [メニューオプションアイコン] でメニューを表示し、*[リストア]*を選択します。
5. 「* Source *」で Storage VM を選択し、データのリストア先となるボリュームの名前を入力します。
6. 「* Destination *」で、リストアする Snapshot コピーを選択します。
7. [保存 (Save)] をクリックします。

SnapMirror クラウド関係を削除します

System Manager を使用してクラウド関係を削除できます。

手順

1. [* ストレージ]、[ボリューム] の順にクリックし、削除するボリュームを選択します。
2. ソースボリュームの横にあるをクリックし [メニューオプションアイコン]、*[削除]*を選択します。

3. クラウドオブジェクトストアエンドポイントを削除する場合は、 * クラウドオブジェクトストアエンドポイントを削除（オプション） * を選択します。
4. [削除（Delete）] をクリックします。

クラウドオブジェクトストアを削除する

Cloud Backup 関係に含まれていないクラウドオブジェクトストアは、System Manager を使用して削除できます。クラウドオブジェクトストアがクラウドバックアップ関係の一部である場合、そのクラウドオブジェクトストアは削除できません。

手順

1. [保護]、[概要]、[クラウドオブジェクトストア*] の順にクリックします。
2. 削除するオブジェクトストアを選択し、をクリック [メニューオプションアイコン] して*[削除]*を選択します。

Cloud Backup を使用してデータをバックアップ

ONTAP 9.9.1以降では、System Managerを使用して、Cloud Backupを使用してクラウド内のデータをバックアップできます。



Cloud Backup は、FlexVol の読み書き可能ボリュームとデータ保護（DP）ボリュームをサポートしています。FlexGroup ボリュームと SnapLock ボリュームはサポートされません。

作業を開始する前に

BlueXPでアカウントを確立するには、次の手順を実行する必要があります。サービスアカウントには、「Account Admin」というロールを作成する必要があります。（他のサービスアカウントロールには、System Manager からの接続の確立に必要な権限がありません）。

1. "BlueXPでアカウントを作成します"。
2. "BlueXPでコネクタを作成します" 次のいずれかのクラウドプロバイダを使用：
 - Microsoft Azure
 - Amazon Web Services（AWS）
 - Google Cloud Platform（GCP）
 - StorageGRID（ONTAP 9.10.1）



ONTAP 9.10.1以降では、クラウドバックアッププロバイダとしてStorageGRID を選択できますが、BlueXPがオンプレミスに導入されている場合にのみ選択できます。BlueXPコネクタは、オンプレミスにインストールし、BlueXPソフトウェアサービス（SaaS）アプリケーションから利用できるようにする必要があります。

3. "BlueXPでCloud Backup Service を購読します"（適切なライセンスが必要です）。
4. "BlueXPを使用して、アクセスキーとシークレットキーを生成します"。

クラスタをBlueXPに登録します

クラスタは、BlueXPまたはSystem Managerを使用してBlueXPに登録できます。

手順

1. System Manager で、「保護の概要」に移動します。
2. * Cloud Backup Service * で、以下の詳細を指定します。
 - クライアント ID
 - クライアントシークレットキー
3. [Register and Continue] を選択します。

Cloud Backup を有効にします

クラスタをBlueXPに登録したら、クラウドバックアップを有効にして、クラウドへの最初のバックアップを開始する必要があります。

手順

1. System Manager で、* Protection > Overview * をクリックし、* Cloud Backup Service * セクションまでスクロールします。
2. クライアント ID * と * クライアントシークレット * を入力します。



ONTAP 9.10.1 以降では、クラウドの使用コストについて、「* クラウドの使用コストの詳細 *」をクリックして確認できます。

3. [接続して Cloud Backup Service を有効にする *] をクリックします。
4. [* Cloud Backup Service を有効にする *] ページで、選択したプロバイダーに応じて次の詳細を入力します。

クラウドプロバイダ	入力するデータ
Azure	<ul style="list-style-type: none">• Azure サブスクリプション ID• 地域• リソースグループ名（既存または新規）
AWS	<ul style="list-style-type: none">• AWS アカウント ID• アクセスキー• シークレットキー• 地域

Google Cloud プロジェクト（GCP）	<ul style="list-style-type: none"> • Google Cloud プロジェクト名 • Google Cloud Access キー • Google Cloud Secret キー • 地域
StorageGRID （ONTAP 9.10.1以降。BlueXPのオンプレミス環境のみ）	<ul style="list-style-type: none"> • サーバ • SGアクセスキー • SG シークレットキー

5. 保護ポリシー * を選択：

- * 既存のポリシー *：既存のポリシーを選択します。
- * 新しいポリシー *：名前を指定し、転送スケジュールを設定します。



ONTAP 9.10.1 以降では、Azure と AWS のどちらでアーカイブを有効にするかを指定できます。



Azure または AWS を使用してボリュームのアーカイブを有効にした場合、アーカイブを無効にすることはできません。

Azure または AWS のアーカイブを有効にする場合は、次の情報を指定します。

- ボリュームがアーカイブされるまでの日数。
- アーカイブに保持するバックアップの数。最新のバックアップまでアーカイブするには、「0」（ゼロ）を指定します。
- AWS の場合は、アーカイブストレージクラスを選択します。

6. バックアップするボリュームを選択します。

7. [保存（Save）] を選択します。

クラウドバックアップに使用する保護ポリシーを編集します

Cloud Backup で使用する保護ポリシーを変更できます。

手順

1. System Manager で、* Protection > Overview * をクリックし、* Cloud Backup Service * セクションまでスクロールします。
2. をクリックし、*[編集]*をクリックし [メニューオプションアイコン] ます。
3. 保護ポリシー * を選択：
 - * 既存のポリシー *：既存のポリシーを選択します。
 - * 新しいポリシー *：名前を指定し、転送スケジュールを設定します。



ONTAP 9.10.1 以降では、Azure と AWS のどちらでアーカイブを有効にするかを指定できます。



Azure または AWS を使用してボリュームのアーカイブを有効にした場合、アーカイブを無効にすることはできません。

Azure または AWS のアーカイブを有効にする場合は、次の情報を指定します。

- ボリュームがアーカイブされるまでの日数。
- アーカイブに保持するバックアップの数。最新のバックアップまでアーカイブするには、「0」（ゼロ）を指定します。
- AWS の場合は、アーカイブストレージクラスを選択します。

4. [保存 (Save)] を選択します。

クラウド上の新しいボリュームまたは LUN を保護します

新しいボリュームまたは LUN を作成するときは、ボリュームまたは LUN のクラウドにバックアップできる SnapMirror 保護関係を確立できます。

作業を開始する前に

- SnapMirror ライセンスが必要です。
- クラスタ間 LIF を設定する必要があります。
- NTP を設定する必要があります。
- クラスタで ONTAP 9.9.1 が実行されている必要があります。

このタスクについて

次のクラスタ構成では、クラウド上の新しいボリュームや LUN を保護することはできません。

- クラスタを MetroCluster 環境に含めることはできません。
- SVM-DR はサポートされていません。
- Cloud Backup を使用して FlexGroup をバックアップすることはできません。

手順

1. ボリュームまたは LUN をプロビジョニングするときは、System Manager の * Protection * ページで、* SnapMirror を有効にする (ローカルまたはリモート) * チェックボックスを選択します。
2. クラウドバックアップポリシータイプを選択します。
3. クラウドバックアップが有効になっていない場合は、* Cloud Backup Service を有効にする * を選択します。

クラウド上の既存のボリュームまたは LUN を保護

既存のボリュームと LUN に対して SnapMirror 保護関係を確立できます。

手順

1. 既存のボリュームまたは LUN を選択し、* Protect *（保護）をクリックします。
2. [* Protect Volumes] ページで、保護ポリシーに [* Backup using Cloud Backup Service *] を指定します。
3. **[Protect]**(保護) をクリックします
4. [* 保護] ページで、[SnapMirror を有効にする (ローカルまたはリモート)]*] チェックボックスをオンにします。
5. 「 Cloud Backup Service を有効にする」を選択します。

バックアップファイルからデータをリストアする

データのリストア、関係の更新、関係の削除などのバックアップ管理操作は、BlueXPインターフェイスを使用している場合にのみ実行できます。を参照してください "[バックアップファイルからのデータのリストア](#)" を参照してください。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。